

発行所

発行日・昭和 58 年 3 月 10 日
東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人日本学校体育研究連合会
編集責任者 理事長 新村 正雄

学体連会報

思い出二つ、三つと決心

会長 大石 三四郎



4 歳頃のことと思う。現在の横浜の高島町のところに、旧横浜駅があった。その駅の入口の階段付近で、兄や友達と遊んでいたが、兄たちは私を置いて帰って行ってしまった。私は大きな声をたてて泣いて、その後を追いかけようとしていた。そのとたんに、駅前の派出所の巡査が通りがかりに私を迷子と思っ

て派出所に連れて行き、キャラメルをくれた。私はそれを口に入れて、そのまま目をつぶって、寝こんでしまった。

しばらく経ったのであろう。母か兄か誰れだったか覚えていないが、私を連れに来ていた。家に帰ると皆が笑って私をみている。「三公、迷子になりやがって」というわけである。

5 歳頃だったと思う。たしか、私の家が戸部橋とあって、旧横浜駅前の小さな橋のすぐ向かいにあった。その橋の辺から桜木町の駅まで、マラソンだというので近所の子供と一緒に走ったことを思い出出す。どうも、金栗さん（東京高等師範のOB）がバリのオリンピックでよい成績を出した頃であろうと、30 歳頃になって推理する。子供は何も知らなくても、その時代の空気を知らずに反映しているのだと悟る。

小学校は戸部の学校であった。伊東寛全という校長で、三橋先生の体操を盛んにやっていた。もちろん、小学生である私には三橋先生が大谷先生とは喧嘩仲間とは知らない。これも、東京高等師範学校の体育科に入学して大谷武一先生の三橋批判を聞いて、そんなものかと知る。後から聞けば、戸部小学校の生徒のときの受持の渡辺末雄先生が三橋体操の

一方の旗頭であったことも高師卒業後、千葉師範学校の助教授となって、昭和 19 年頃、県内の体育の視察や指導に行き初めて知る。当時の県の体育課長は山口久太氏で三橋派の体操に対しては反対の態度をとっていた。

戦後、金沢高師から金沢大学を経て、東京教育大学へ転任し、大学の一般体育などをやるようになって、大学の体育教員の全国大会に三橋先生に頼んだ。その話のなかで、「体育の良さは三橋先生によって教えられた」という。一昨々年、学体連の全国大会で東京渋谷の公会堂での講演も文部省の指名で三橋先生に頼んだ。そのときも、体育を好きになったのは三橋先生のためだと講演のなかで話をされた。単なる三橋先生ではなさそう

だ。

どうも私にはよく解らないが、大谷先生もこの学体連の初代の会長であった。どうして、偉い二人の先生が争ったのであろうかとも思った。

同じ体育の道を進む人々がどうして争うのか、主義主張を異にすれば、そこには相容れないものが生じるのであろうか。

私はどちらかといえばいい加減な男で、あまり型にはまったことができない。したがって、大学の正課体育のなかには、ローラースケート、ボウリングなど、世の中で一般に行われているものはどしどし取り入れていった。そのため、いろいろなことを言われたけれども、また別な意味で、学校教育以外の多くの人々に接することができた。私は余り考えずに何でもやってみよう。そして、そのものが持つ良い

ものを育てるように努力する。一般の人々が夢中になってやっているものには、そんなに悪いものがあるとは思われないから。しかし何も上手にならなかった。

こうやって昔のことを振り返ると、何か時の流れの偉大さを感じる。孫も今年から小学校だ。何かしっくりとした流れをつくってやりたいと思う。また息子も42歳になって新聞記者で体力を消耗している。何とかして、中年の人の体力管理のよい流れをつくらなければならないと思う。自分の子や孫のことを考

て、人間は自分勝手だと思う。しかし、「己が子を慈しむ心を則とせば、自ら道に至らむ」という二宮先生の言葉があるから、あながち自分勝手でないかもしれない。

近頃、20年も前に書いた「ボウリング・マニュアル」が年に15000部を超えた。何か時代が変化しつつあることを身に感ずる。現代の子供が大きくなって、親に連れられてボウリング場に行ったことを思い出す時が来るに違いない。私が幼時に迷子になったり、マラソンを走ったことを思い出すように。

第21回全国学校体育研究大会に出席して

——学体連に期待するもの——

文部省体育局審議官 島田 治



◇ 第21回全国学校体育研究大会が昨年10月新潟市において開催され、これに出席の機会を得た。まず、学体連及び新潟県・新潟市の関係者の方々に、大会の準備・運営の御労苦について敬意を表するとともに、大会の成功裏の開催をお祝い申し上げたい。

ところで、この研究大会も、発足以来、すでに21回を教え、全国の学校体育の先生方のよき研鑽と交流の場として、学校体育の発展を支えるものとなった。また、その間、学体連の各県組織も年をおいて整備され、名実ともに、全国学校体育関係者の拠りどころとなり、すべての学校段階を通じた連携と励ましの組織として着実な発展を遂げられてきたことを喜びたい。

◇ 今日、学校教育に最も必要なことは、連携と協力ということではないかと思う。もちろん、いずれの時代、いずれの社会でも、人々の連携と協力を基礎に成り立っていることはいままでもないが、今日、学校教育をめぐる様々な問題を考えるとき、このことは幾重にも強調したい。そして、思い起こすことは、学校の先生方の職場とは、とりわけ厳しい職場なのだということ。学校の先生方の恵まれているのは、とにかく、就職すれば、直ちに、いわゆる一人前の先生として扱われることだとは考えようであ

り、そのことが、逆にいかに厳しいことか、立派な先生方ほどよく口にされる。外から眺めているだけでも確かにそうだ。多くの職場では、新入社員は5年、10年の研鑽期間を経てようやく一人前となる。世間もそういう風に接する。でも、学校の先生方は、学卒、就職、即日、子供に対しては、完成された先生でなければならない。しかも、仕事は、その知識、能力、人品骨柄—およそ人間としてのあらゆること、全人格をもって対しなければならぬ。それが特徴である教育という仕事である。しかも、ほとんど、一人で、孤独の緊張をもって対しなければならない。従って、若い先生方にとって、彼が、彼女が自ら求めるかどうかは別として、先輩の先生方の目に見えぬ支援、それとなき暖かい指導や心遣いこそ最も望まれる。逆に若い先生にとって、何よりの特徴は、その若いということ、若さの持つ「張り」とその他様々の魅力、これは、それ自体、大きな教育力であり、学校を支える活力である。先輩の先生方にも、十分に汲みとられ、新しいエネルギーを提供しているにちがいない。一昨今、必ずしも、こうはいかないという話も聞く。勿論、種々の行政的、学校経営的な措置や配慮も研究されていく必要があるが、やはり、新進とヴェテランの連携と協力こそ、学校という厳しい職場を支える基盤だと思

う。このこと、体育関係の先生方に限られる問題ではないが、大会での研究発表に接するにつけ、ロービーでの何とはなしの雑談の折につけ、底に流れる大切なものと感じた。そういう意味で、今後とも学体連が、益々全国の学校体育の先生方の連携と協力を努められることを期待したい。

◇ いま一つ、国立教育研究所長、木田宏先生の大会での御講演の中に、学校の中で、体育の先生方こそ、学校の内外を通じた活動の幅が広く、学校と社会の連携の中で教育を考えていくことができる立場にあるのではないだろうかという御趣旨のお話があったことに、あらためて感銘を受けた。

学校と家庭と社会の連携、これは、今日の教育を考えるときに誰もがその推進を望むテーマであるが、実際活動には、むつかしい問題が多い。多様な問題を秀れたバランス感覚をもって総合的に判断す

る能力—それが最も求められる場合である。私は、ある意味で体育は総合教科であり、授業の中で、たえずこのような判断が最も求められている科目であると思う。加えて、部活動、更に学校の外に出れば、否応なく、地域の体育指導者として頼られ、求められることも多い。自ずと、視野の広い、バランス感覚に富んだ先生方が出現する。そうだ、全国の学校体育の先生方に、是非、こういう意味で、学校と家庭と社会—三者の連携と協力の実践の道をより広く切り拓いていただかなければならない。これが大会に出席して感じたもう一つの連携と協力ということであった。これまた、学体連の今後の一層の活動に期待することであることはいままでもない。

◇ ともあれ、今後、研究大会の一層の前進と学体連の発展を祈る。

全国研究大会を終えて

新潟県学校体育指導者協議会

会長 今井政夫



第21回全国学校体育研究大会（昭和57年10月14日～15日）を開催させていただき、大石会長先生はじめ関係皆さま方の絶大な御指導と御協力により、何とか大過なく所期の目的を達成して終了することが出来ました。遅ればせながら、本紙上をかりて衷心より厚く御礼申し上げます。

思い起こすと、本大会を開催するに当って、予想された諸々の障得と苦難は確実に具体的問題点として浮きばりにされましたが、当初かかげた基本的構え方として、

1 大会の準備期間及び大会開催を期して、本県の研究組織の強化・拡大を期す。

2 県内各学校ならびに堅実な研究グループ（個人）を浮きばりにして、広く同好の士の交流を図る。

3 従来、とかく児童・生徒の成長発達過程における各学校間の研究組織の絶縁状態に、一脈の系統の流れを持たせたい。

4 地方都市新潟の実体と特殊性を活かした大会にしたい—新潟方式

等々を骨子として、根気強く意志統一を図ったのでありますが、予期以上の盛り上がりと熱意により、ある程度期待した目的をはたしたものと確信いたします。

さて、大会を顧みまして思うことは、特に私どももそのことを常に念頭において計画を進めた訳であります。

1 少なくとも、前期中等教育までは、地方研究機関としての地元大学との密接な関連のもと、指導助言、協力体制を一層強力に進めたい。

2 県内における斯界のリーダー、研究グループ（個人）の育成助長及び交流の拡大を図りたい。

3 研究会会場ならびに研究者の日頃の問題解決の機会としたい。

などの懸案事項推進のめどがついたことに、特に大会を終えての実感として、こころよい余韻となっていることに、喜びを感じます。

昭和59年度以降の大会のために

事務局長 重 田 一

全国大会を機会に学体連の評議員会・理事会を開くことは、極めて大切なことと考えていた。そこで10月の常務理事会にはかり、新潟県の栗林先生に、会場の設営など一切をお願いした。

皆様の慧智によって、何とか昭和59年度以降の全国大会を決めていただくことができれば、喜びこれにすぎるものはないと、かねがね思っていたからである。

10月13日（水）、全国大会の前日午後4時から、新潟市いさりあ軒で、評議員会と理事会を合同で開催した。終始、話は59年度以降の全国大会開催に集中された。次の表と図をごらん下さい。

全国学校体育研究大会東・中・西部別開催一覧
(昭和58年度まで)

年 度	回	東	中	西
昭和37	1	千 葉		
38	2		兵 庫	
39	3			鳥 取
40	4	東 京		
41	5		岐 阜	
42	6		大 阪	
43	7	福 島		
44	8			高 知
45	9			長 崎
46	10	埼 玉		
47	11		福 井	
48	12		和 歌 山	
49	13	山 形		
50	14	東 京		
51	15		滋 賀	
52	16			熊 本
53	17	群 馬		
54	18	東 京		
55	19	東 京		
56	20		大 阪	
57	21		新 潟	
58	22	神 奈 川		
59	23			

全国学校体育研究大会開催一覧 (●は開催県)



昭和57年度以降の全国大会開催予定が、次の表のようになっていることも承知していないと、現実にした意見の開陳はしにくかろうと思われる。

第21回（昭和57年度）以降の全国大会開催予定県

年度	57	58	59	60	61	62
大会略称	新潟	神奈川				
学体連全国大会	新潟	神奈川				
高体連	鹿児島	愛知	秋田	石川	山口 (予定)	北海道
体協体	島根	群馬	奈良	鳥取	山梨	沖縄
女体連全国大会	秋田	宮崎	石川			

このような資料を差しあげて、活発なご意見を頂戴したのである。以下、ご意見を順に述べる。

- 全国大会の順番を東・中・西と決めてかかれ。
- 「順番確認」を決議的にせよ。決定に従い、理事が地区のまとめ役を買って出べきである。
- 61年度は兵庫で考えてみたい。現実の組織力は弱いが。
- 私の県の場合、33年から6年計画でやった。

- 順番確認の意見に賛成。
 - 地区でやり易いように、実態に即して寄附行為の改訂をすべきだ。
 - 幼・小・中・高校・大学の体育から社会体育も含めて、生涯スポーツを目標にすべきである。相互の拒否反応を打開して行くべき時である。
 - 全国大会をやる県のみをめぐらしてもよいが、組織の崩壊につながらないように、学体連の趣旨を生かすべきである。現在、小・中・高・大学の一貫性が欠けていると思われる。
 - 教育研究会が分裂して、6年位前に学体連に加盟した。
 - 地区をまとめやすいものにする必要がある。
 - '59、60年度を何とかして、61年度までに態勢をかためたい。
 - 地区別開催がよい。59、60年度を何とか本部で努力してもらって、61年度から東・中・西の順でやって行きたい。
 - 準備に最低2年は必要。3年をかけている県もある。
 - ブロック制を踏襲して、59年は西、60年度は東地区で、今の順番のわくを超えてやって欲しい。
- 以上のような発言が続いたが、午後6時から評議員・理事等の懇談会もあるので、明日会場を改めて、この会を継続することになる。
- 第21回全国学校体育研究大会第1日が、新潟市・新潟県民会館で午後3時に終了した直後から、館内の喫茶室を午後4時までという約束で借り切る。
- 予め大会の日程として、第1日の最後に都道府県代表者

会議が行なわれることになっていたので、評議員、理事以外の方もかなり出席されていたようである。終ってから、大阪の尾崎弘明先生から、「あの会を拡大評議員会・理事会といえよよかったと思う。」といわれ、成程と思った。

そこで、前日の復習をしてから、会議のできる時間が少ないという前提で、さらにご意見を出していただいた。

- 大会を均等に分担するのが原則だが、状況によって無理がある場合は検討することにすればよい。
- 予定としては、東・中・西の順番ということにして、そのように努力して下さい。このことを確認して下さい。
- 明年も、この東・中・西の順で行く方向に向かっているかどうかを、情報交換という形で話し合う必要がある。
- 鹿児島県では、昭和60年度について考えてみようかというような空気になろうとして来ている。

結局、事務局長より2日間にわたる会議の主旨を次のようにまとめて、ご意見を伺った。

「全国学校体育研究大会について」

- 1 昭和60年度については鹿児島県に、61年度については兵庫県に開催方を打診する。
 - 2 昭和59年度については、事務局において、開催県決定のために最大限の努力をする。
 - 3 昭和62年度以降の開催県決定については、全国の東・中・西の区分に従って、開催を担当できるよう努力し、準備する。
- これに対し特に意見なく、最後に大石会長より、「どうかこの線でごよろしくお願い致します。」との挨拶があり、全員拍手で応えて閉会となった。

体力から見て

幼児、児童、生徒のこんな点が変わった!

体力から見て、幼児のこんな点が変わった

東京都立教育研究所

指導主事 松原要子



人間としての基本的な動きを身につける幼児期は、生涯の中で、最も運動欲求の強い時期といわれる。

ところが近年、幼稚園に入園してくる幼児の中には、室内でじっとしていたり、内遊びを好む傾向がみられる。そればかりでなく、3～4歳児であれば当然完成されている筈の直立二足歩行が、健常児であるのに十分ではなく、よたよた走ったり、バランスのとれない歩き方をしている幼児もみられる。このため、ちょっとしたことで転んで骨折をいたり、頭を打ったりして思わぬ大けがに至ることも多い。

昭和55年に都立教育研究所が都内公立幼稚園年長児5867名を対象に実施した運動能力調査によると、同じ方法で東京教育大が昭和49年に実施した結果と比較して、平均値で上回っていたのは、25m走のみで、他の立幅跳び、ボール投げ、体支持持続時間、両足連続跳び越し等はすべて劣っていた。つまり、遺伝的要因や瞬発力が能力の要因となっ

ている走りについては劣っていないが、環境や筋力、持久力、調整力が要因となっている種目の落ち込みが目立っている。これは、幼少時からの運動経験が不足していることの現れであると考えられる。

なお、全種目とも都の平均を上回っていたのは、都心の狭小な地域に所在している園であった。これらの園では、入園時の幼児の実態や、降園後の家庭での遊びの状況から、園では意図的に外遊びや運動遊びを推進し、幼児の発達を促していた。この園の幼児には、何事にも意欲的に取り組む姿がみられる。

このことから幼少時に十分な運動遊びの体験を積むことの大切さと、幼児期ならば多少の発達の遅れも取り戻すことができるということが分かった。

現代っ子の体格と体力

東京都渋谷区立中幡小学校校長

西 田 猛 男



昭和10年頃の子供の体と現在を比較してみると満10歳児で、身長は約10cm、体重は6kg程ふえている。この点からみれば、喜ぶ現象ではあるが体力面を比べると走力では50m走の早さが昭和40年では0.3秒遅くなり、56年度にはややもたなおしているとはいえ、46年前の走力と同じ位で、走幅跳びでは7cmも劣っている結果がでている。「体格は大きくなったが、のろみである」というのが、現在の子供の特色といえよう。

そこで、この面の教育にもっと力を注ぐ必要がでてくる。今の子供は、赤ちゃん体操を母親にして貰い、テレビ体操をし、数限りない体育的遊具に恵まれ、至れりつくせりの体育の時間の指導を受けながら、なお、このような体力の劣った子供になっているのは、なぜだろう。何ひとつして貰えなかった昔の子供の方が機敏であるということとは、全く不思議なことと言わねばならない。

昔から、やんちゃ坊主は、年中衣類を汚したり、破ったり、膝や腕に生傷の絶えたことがなかった。しかし、大きなけがはあまりしなかったのである。変におとなしい子

供が、大きなけがをしたり、事故にあうことの多いのを見てもそれがよくわかる。やんちゃ坊主は機敏であり運動神経がよく発達していて、とっさに反応できるのである。

人間は成長していく過程において、その時期に必ずしておかねばならないことがある。

- 模倣すべき時期（零歳～幼稚園）
- 自分がやる気をもって、主体的にやる時期（特に幼稚園～小学校時代）
- 動き遊び廻らねばならない時期（幼稚園～小学校3年生位）
- 集団の中に入って協力をおぼえる時期（小学校の中学年頃から）
- 記憶の訓練をする時期（小学校中学年時代）

家庭も学校も社会も、将来の日本人のことを考えるならば、それぞれの場で真剣に考え努力していくことが必要である。

体力から見て、生徒のこんな点が変わった

東京都新宿区立西戸山中学校長

田能村 祐 麒



児童・生徒の体力がどう変わったかについては、文部省が毎年実施している体力診断テストや運動能力テストによって明らかにされている。

それによると、反復横とび、握力、踏み台昇降運動は各年齢とも10年前よりも高い指数を示しており運動能力テストも13歳以降は加齢とともに指数が高くなっている。しかし立位姿勢の保持や全身的な運動に重要な役割を果たす背筋力、運動や日常生活を円滑に行うために必要な柔軟性が男女とも各年齢を通じて低下の傾向にあるという。(学校保健の動向 昭和57年度版)

こういった児童・生徒の体力、運動能力の一般的なとらえ方は別に、日常の教育活動の中で教師たちが経験し、感じとっている変化がある。

たとえば、いまの児童・生徒は転び方が下手であるという。障害物をうまく避けるという身体のはたつきや転ぶときに身体をうまく支配することは、巧緻性や敏捷性などであろうが、これらは、児童・生徒の傷害の状況から明らかに低下しているといえる。

鉄棒、とび箱、陸上の跳種目などで着地に失敗してあしを骨折する例が少なくない。自分ほどのくらいの高さならば安全に着地できるかといった判断力が乏しく、高さに応じて着地の衝撃を緩和しようとする身体の働きが未熟だからである。体力の変化というより体力を発揮するうえで欠くことのできない能力が低下しているともいえる。

背筋力の低下については、最近の児童・生徒の下肢が伸びて体型が変化してきたことから、その測定方法を問題にする必要があると思うが、それにも増して、児童・生徒の気力とのかかわりを考えてみる必要がある。本当に背筋力が低下しているのか、睡眠不足、栄養の問題、生活目標の喪失などがもたらす無気力が、背筋力の発揮を阻害しているのではないかとということである。

最近の児童・生徒は羞恥心が強く、まわりを気にして失敗を恐れ、全力を出し尽そうとしない場合が少なくない。こういった心理的な変化が、体力の発現に影響し、体力が変わったと見える場合も少なくないように思える。体力のとらえ方を問題にしてみる必要があるのではなからうか。

能力に応じた体力つくりの実践

統計的手法の導入

大阪府立藤井寺工業高等学校教諭 田 中 清



1 はじめに

近年、青少年の体格の伸長は真に著しいが、体力面ではさしたる向上もみられず、むしろぜい弱化が指摘されるなど、健康・体力をめぐる諸問題が大きな社会的関心事となっている。

こうした現実を踏まえ、本校では「体力つくり」に特に力を注いできた。

スポーツテストのデータ処理にコンピューターをフルに活用し、生徒の体格・体力・運動能力をより綿密に分析し、個々の生徒にそれらの情報を十分認識させるとともに、

一人ひとりの能力に応じた運動処方や期待値・目標値等を個人カードに示し、それをもとにして、より合理的で充実した体力つくりが自主的に行えるよう配慮した。なお、本研究は、全教職員の共通理解と一致協力のもと、いわゆる「学校ぐるみ」の体制をつくり実践してきた。

2 研究概要

教科「保健体育」はもちろんのこと、その他の教科時、特別活動及び自由時間等、学校教育のあらゆる分野において体力つくりを意図した。また、家庭においても合理的な体力つくりを計画的・継続的に実施させ、生涯

体育への基礎作りをねらいとした。以下に、その実践例の概要を述べる。

- (1) スポーツテストや各種健康診断の集計及び分析にコンピュータを用い、生徒の身体状況をより詳細に把握するように努めた。そして、一人ひとりの運動能力各種目の期待値を設定し、目標を与えるとともに、各生徒の能力に応じた補強トレーニング処方を作成し、体力づくりを実施させた。
- (2) 体育的行事・クラブ活動・部活動及び地域スポーツ活動等に積極的に参加させた。
- (3) 健康・体力づくりに対する意識の高揚と、家庭との連携を密にすることによって、日常生活の中に体力づくりを定着させ、生涯体育への基礎作りを努めさせた。
- (4) 校内研究授業や校外での研修会・講習会等に積極的に参加し、より効果的な指導法の研究に努めた。

3 実践状況

(1) 統計的手法の導入

スポーツテスト12種目と身長・体重・胸囲・座高のデータ処理を行い、生徒一人ひとりの各種の指標・指数を算出した。つまり、スポーツテスト記録伸長度一覧・上位者一覧、スポーツテスト個人カード等を作成した。また、多変量解析（相関分析・ベクトル相関分析・クラスタ分析・主成分分析）及び重回帰分析によって、運動能力テスト種目の期待値と目標値を算出し、期待値・目標値個人カードを作成した。これらスポーツテスト個人カード及び期待値・目標値個人カードを生徒に配布して、自主的な体力づくりのめやすと

させた。なお、正準相関分析によって、一般運動素質等も算出して指導の参考とした。

(2) 科目「体育」時の取り組み

授業の導入時に藤工サーキットトレーニングや二人一組のトレーニングを実施させるとともに、サーキットトレーニング種目の精選や各生徒に応じた負荷の決定等を研究した。

(3) 個別指導の方法

個人カードをもとに、目標に応じた合理的な体力づくりが自主的にできるよう啓発した。特別トレーニングやトレーニング日誌の記入励行がその一例である。

(4) 保健体育的行事と体力づくり

スポーツテスト・校内マラソン大会・特設授業・藤工体力トレーニング指導士養成講習会・一斉トレーニング等の行事をとおして体力づくりに取り組んだ。

4 まとめ

スポーツテストの結果、多くの種目に順調な伸びがみられた。また、数値で示すことはむずかしいが、業間や自由時間等にグラウンドや体育館で運動する生徒が目立って増えてきたことは事実である。

今後も体力づくりに必要な知識や実践の方法を指導し、運動の喜びを味わわせ、運動好きな生徒に育て、それをもとに健康や体力の向上をはかり、将来の健康生活等に必要の態度を育てることをめざしたい。

なお、本研究は学校ぐるみの取り組みであり、ジョギングやスポーツに取り組む教職員も多くなる等の現象もみられた。

地方だより

昭和58年第22回全国大会に向けて

神奈川県学校体育研究連合会

会長 田代七男



神奈川県学校体育研究連合会は、昭和58年11月17日～18日にかけて開かれる第22回全国学校体育研究大会に向けて活動を続けている。

昭和57年9月4日第22回全国学校体育研究大会神奈川県実行委員会の設立を期に、この活動は動き出した。実行委

員会は神奈川県学校体育研究連合会会長がそのまま実行委員会の会長となり、委員は県下校長会、行政、保健体育関係の代表の方々で構成し、全県的な取り組みを基盤として第22回全国大会にそなえ、大会の成功に大きな期待をかけている。

実行委員会の下には常任委員会と大会事務局を設置し具体的な仕事の総括をしている。特に大会事務局は総務部、庶務部、式典部、編集部、研究部と5部会に分かれて仕事の分担をしている。事務局員全員による事務局会議のあとは、5部会の主体性を尊重し、今後予想される活動のための準備について話し合いがされている。総務会は他の4部会とは性格を異にし、4部会の連絡調整の仕事をおこなう事になっている。

神奈川大会の準備も大阪大会、新潟大会の諸活動を参考にさせて頂いており、漸くその糸口が見つかったというのが神奈川大会のあゆみである。神奈川大会は神奈川県学校体育連合会が中心となり、学校教育関係者の協力のもとにすすめているだけに、県下の学校、幼稚園の先生方ひとりひとりの大会への認識が大会の成功への第一歩であるとしている。

それだけに今後の活動の中で、研究への関心をどう高めかが課題になるものと考えている。

幸いなことに、分科会会場になる授業公開校および幼稚

園では、着々と研究が推進されており、1年後の全国大会にその成果が発表されるものと信じている。

分科会会場も横浜市・川崎市・横須賀市・小田原市と県下全域に広がっており、各地域の研究活動に大きな刺激となっている。その結果地域の実態に即した体育研究の成果が期待されている。

なお全体会会場も神奈川県が誇る県民ホールに決定している。横浜の港を眼前にした県民ホールは、県民の文化活動のセンターとして利用されている場所でもあり、全国から参集される会員の皆さんが満足して頂けるものと信じている。

この全国大会をお引き受けして、神奈川県学校体育研究連合会は組織の活性化に大きな発展をみました。また小学校、中学校、高等学校それぞれの活動内容に対し、お互いに強い関心を持つようになった事は組織として喜んでいる。

今われわれは、昭和58年の11月、その成果を全国の会員の方々にお見せ出来るものと信じて頑張っている。

富山県だより

富山県学校体育研究連合会

会長 会田守宏



昭和57年の4月、門外漢の私が県高校体育保健学会長に就任した折、最近、県内の小・中・高の体育の先生方の中に、研究のための連合会を組織しようという気運の盛り上がりがあることを知った。それは、小・中・高別にバラバラであった会員相互の連絡を密にして、学校体育に関する共同研究をよりすすめたいというまことに時宜に即した適切な趣旨であった。

それで、県教委とも相談し、年度の途中ではあったが、小・中・高・特殊の体育の先生方の連合体としての富山県学校体育研究連合会の結成と、日本学校体育研究連合会への加盟について、高校をはじめとして、小・中学校の関係者の方々に協力を呼びかけたわけである。

先ず5月には、県高校体育保健学会の総会で承認を受け、更に6月には、小学校教育研究会体育部会と中学校教育研究会保健体育部会で、それぞれあいついで承認を受けた。

そして、7月7日県立富山西高校において、県教育委員会の上坂体育課長と日本学校体育研究連合会の重田事務局長

を来賓として迎えて、富山県学校体育研究連合会役員総会を役員21名全員出席のうち開催し、正式に県学体連を発足させ、ただちに日本学体連への加盟を決定したものである。とくに、当日は遠路遙々日本学体連本部から事務局長の重田一先生にご臨席を願い、ご丁寧なお祝いのご挨拶とご激励をいただき、ここに改めて厚くお礼を申しあげる次第である。

本県では、かなり以前から小・中・高・特殊の教育研究会の組織が確立しており、何れも三十有余年の確固とした研究実績の積み重ねがあるが、このたびの県学体連の発足と日本学体連への加盟を機会に、更に小・中・高・特殊の各校種の体育の先生方が互いに切磋琢磨し、より実践的研究の深まりを図ることが出来ればと願っている。

昨年は早速、新潟市で開催された第21回日本学体連研究大会に、小・中・高別にそれぞれ会員を派遣し、これからの研究のよすがにさせてもらっている。

日本学体連に加盟して、先日、近年の学体連会報を見ていると、大石三四郎会長が20年、30年と会ったことの

ない人に時々出会うことがあり、会長としての大きな役割、喜びであるとのべておられるのが目にとまった。私も、昭和20年代に金沢で4年間、先生にご懇切な教えを受けた

末輩であり大変懐かしい思いをしたわけである。これも、日本学体連のとりも一つ一つの出会いであろうと思った。

富山県学体連ともども切にご指導を願うものである。

鹿児島県学体連のあゆみ

鹿児島県立鹿児島東高等学校

校長 東 園

敏



1 本県における学体連の活動状況

学校体育振興に寄与するため、小中高等学校の連携を図りながら、研究資料の交換及び会員の相互の資質の向上に努めながら、学校体育の発展を図ることを目的とし、毎年研究活動を小中高等別に開催している。

小学校では、各地区の体育中心校、県教委指定校の成果、個人研究を中心にした機関誌「小学校体育のあゆみ」を年一回出版し県下の小学校に紹介している。中学校では、体育学習における指導計画を作成配布している。また各ブロック別実技研修会を開催し、保健体育学習資料として県内全中学に県版として紹介している。高校では、毎年7地区で本会が研究費を補助し、体育実技研修会、研究授業等を開催している。これらを通して、体育指導の資質を高め併せて会員相互の親睦を図っている。

(1) 57年度全国高校総体をかえりみて

「南国に競え若人はぐくめ友情」のスローガンのもと、一人一役を合言葉に昭和54年より総体事務局準備委員会が設置され、県と各高校との連携を密にし、県単独で昭和57年度の全国高校総合体育大会が10日間の日程で開催されたが、県単独ということから役員の確保、会場および施設等について、いろいろ苦慮された点もいくつかありましたが、各競技場で約3万人以上の選手、役員らであふれるなか高校生の若い力と、鍛え抜いた技をぶつけ合った大会を通じて得た貴重な体験と教訓をふまえて今後の体育振興に役立てていきたい。

(2) 安全点検のチェックポイントの編集

体育活動においては事故はつきものであるが、児童生徒の体育活動における事故を未然に防止し、児童生徒の体育活動が安全に進められるように、また活力あるたくましい心身を持つ児童生徒を育てるため、県教育委員会と学体連が協力し「体育施設、設備等の安全点検のチェックポイント」を50ページにわたり編集し県内各学校に配布した。

(3) 学体連研究会の開催

本県の保健体育研究会は、近年健康づくり、体力づくりの気運の高揚とともに、各学校、各地域において特色ある研究実践がなされている現状である。本年度も、昨年度に引き続き「たくましい体と心を育てる」を研究主題に、本県独自の「山坂達者」の研究実践を含め、保健体育指導上の諸問題について研究発表、研究協議を行い、指導者の資質向上を図ることを目的とし、分科会場を4会場設け、昭和58年2月17日、18日の2日間学校保健体育研究会を開催する予定である。

2 今後の取りくみ

昭和60年度第24回全国学校体育研究大会鹿児島大会の開催依頼をお受けして、本県においては、まず、準備委員会、実行委員会等の組織づくりをし、大会を盛り上げるための研究体制の確立をし、学体連事務局との緊密な連携のもとに、大会が円滑な運営ができるよう努力し、これを契機として県学体連を充実させていきたい。

昭和57・58年度 (理事・監事・評議員一覧)

役職名	氏名	勤務先・職名	所在地	電話
会長	大石三四郎	国立特殊教育総合研究所 所長	〒239 横須賀市野比2360	0468-48-4121
副会長	鈴木正三	学習院大学 教授	〒171 豊島区目白1-5-1	03-971-8989
〃	西田猛男	渋谷区立中幡小学校 校長	〒151 渋谷区幡ヶ谷3-49-1	03-376-1371
〃	田能村祐麒	新宿区立西戸山中学校 校長	〒160 新宿区百人町4-3-1	03-363-0731
理事長	新村正雄	都立市ヶ谷商業高等学校 校長	〒162 新宿区矢来町6	03-260-9151
常務理事	坂井田逸治	専修大学 教授	〒210 川崎市多摩区生田4764	044-911-7131
〃	浅田隆夫	筑波大学 教授	〒112 文京区大塚3-29-1	03-941-5113
〃	入倉富夫	都立立川高等学校 校長	〒190 立川市錦町2-13-15	0425-24-8195
〃	福田昇	世田谷区立代沢小学校 校長	〒155 世田谷区代沢5-1-10	03-413-4551
〃	大迫典男	墨田区立両国中学校 校長	〒130 墨田区横綱1-8-1	03-625-0361
理事	金田一秀美	盛岡大学 教授	〒020-01 盛岡市みたち2-13-1	0196-41-2193
〃	洞口六夫	宮城教育大学 助教授	〒980 仙台市荒巻字青葉	0222-22-1021
〃	本橋利美	茨城県教育庁体育課学校体育係長	〒310 水戸市三の丸1-5-38	0292-21-8111
〃	石川恒雄	千葉県教育庁体育課 係長	〒280 千葉市中央4-13-28	0472-23-4102
〃	保坂一郎	文京区立誠之小学校 校長	〒113 文京区西片2-14-6	03-811-7173
〃	塩川梅吉	平塚市立大洋中学校 校長	〒254 平塚市高浜台7-1	0463-21-0419
〃	田代七男	横浜市立若葉台東小学校 校長	〒241 横浜市旭区若葉台2-5-1	045-921-0532
〃	今井政夫	県立新潟西高等学校 校長	〒950-21 新潟市内野町開場4699	0252-62-1561
〃	大城光彦	清水市立小島中学校 校長	〒424-03 清水市但沼271	0543-93-3273
〃	八木清	京都市立御室小学校 校長	〒616 京都市右京区御室堅町20	075-462-0008
〃	尾崎弘明	府立岸和田高等学校 校長	〒596 岸和田市岸城町10-1	0724-22-3691
〃	福井裕	県立御影高等学校 校長	〒658 神戸市東灘区御影石町4-1-1	078-841-1501
〃	植田俊治	県立奈良高等学校 校長	〒630 奈良市法隆町836	0742-23-2855
〃	白松寿人	山口県教育庁保健体育課 課長	〒753 山口市後河原松柄	0839-23-1952
〃	前田幹夫	高知大学教育学部 教授	〒780 高知市曙町2-5-1	0888-44-0111
〃	森武彦	福岡市立美野島小学校 校長	〒812 福岡市博多区美野島3-22-7	093-451-3575
〃	川野衡平	県立人吉高等学校 校長	〒868 人吉市北泉田町350	0966-2-2261
〃	矢野典信	大分市立鶴崎中学校 校長	〒870-01 大分市皆春1200	0975-21-1040

監 事

氏名	勤務先・職名	所在地	電話
浜口義春	練馬区立伏見中学校 校長	〒177 練馬区高野台1-8-34	03-996-2158
河田利夫	県立山形南高等学校 校長	〒990 山形市東原町4-6-16	0236-22-3502
金森久	都立白鷗高等学校 教頭	〒111 台東区本浅草1-6-22	03-843-5678

評 議員

都道府県	氏名	勤務先・職名	所在地	電話
北海道	鈴木豊	札幌市立伏見小学校 校長	〒064 札幌市中央区南18条西15	011-551-2771
同	川田正徳	北海道女子短期大学	〒069-01 江別市文京台23	01386-6-8011
青森	岡本省三	県立青森北高等学校 校長	〒030 青森市合浦1-11-10	0177-41-0144
岩手	伊藤章一	岩手大学教育学部 教授	〒020 盛岡市上田3-18-33	0196-23-5171
宮城				
秋田	広嶋正比古	秋田市立保戸野小学校 校長	〒010 秋田市保戸野すわ町9-60	0188-23-2651
山形	後藤八郎	県立酒田西高等学校 校長	〒998 酒田市北新町1-1-57	0234-22-0254
福島	遠藤辰雄	福島女子短期大学 教授	〒960 福島市宮代乳児池1-1	0245-53-3221

都道府県	氏 名	勤 務 先 ・ 職 名	所 在 地	電 話
茨 城	都 築 稍	水戸市立石川小学校 教諭	〒310 水戸市石川町 4-4036-6	0292-51-1519
栃 木	岡 島 宣	県立佐野高等学校 校長	〒327 佐野市天神町 761-1	0283-3-0161
群 馬	小 川 肇	前橋市立総社小学校 校長	〒371 前橋市総社町総社 1608	0272-51-6662
埼 玉	吉 川 正 就	県立浦和高等学校 校長	〒336 浦和市領家 5-3-3	0488-86-3000
千 葉	土 屋 孝 夫	県教育庁体育課 指導主事	〒280 千葉市中央 4-13-28	0472-23-9116
東 京	岡 野 伊 与 次	新宿区立戸塚第 2 小学校 校長	〒160 新宿区高田馬場 1-25-21	03-200-6600
同	遠 藤 秀 夫	東村山市立第六中学校 校長	〒189 東村山市秋津町 2-29-14	0423-91-9116
同	菱 山 一 正	都立片倉高等学校 校長	〒192 八王子市片倉町 1643	0426-35-3621
神 奈 川	重 田 正 治	平塚市立金田小学校 校長	〒254 平塚市入野 514	0463-58-1128
同	北 田 拓 司	県立希望ヶ丘高等学校 教諭	〒241 横浜市旭区南希望ヶ丘 79	045-391-0061
山 梨	河 野 敏 男	中道町立中道北小学校 校長	〒400-15 東八代郡中道町上曾根 3215	055266-3077
長 野	大河内 一 樹	諏訪市立四賀小学校 校長	〒392 諏訪市四賀 3175	02665-2-1136
新 潟	貝 谷 東 吾	新潟市立大形小学校 校長	〒950 新潟市大形本町 2-6-1	0252-73-1136
富 山	西 野 秀 夫	富山大学教育学部附属中学校 教頭	〒930 富山市五艘 1300	0764-32-5170
石 川	中 垣 敏 男	金沢市立緑小学校 校長	〒920-03 金沢市みどり 1-166	0762-49-0100
福 井	齋 藤 輝 夫	大野市立開成中学校 校長	〒912 大野市新庄 16-7	07796-5-4680
岐 阜	豊 島 康 彰	県立羽島高等学校 教諭	〒501-61 羽島郡柳津町北塚 3	05838-8-3611
静 岡	渥 美 辰 雄	県立三ヶ日高等学校 校長	〒431-14 引佐郡三ヶ日町釣 78-1	05352-5-0103
愛 知	蛭 川 昌 碩	県立西尾高等学校 校長	〒445 西尾市桜町奥新田 2-2	05635-7-2270
同	青 木 昌 碩	稲沢市立大里中学校 校長	〒492 稲沢市奥町 5570	0587-32-2036
三 重	大 内 武 章	伊勢市立修道小学校 校長	〒516 伊勢市久世町 5	0596-28-2764
滋 賀	橋 本 高 章	県立愛知高等学校 教頭	〒529-13 愛知郡愛知川町愛知川 102	074942-2150
京 都	伊 根 貞 義	伊根町立筒川小学校 教頭	〒626-03 与謝郡伊根町字本坂	07723-3-0202
大 阪	武 田 虎 貞	柏原市立柏原小学校 校長	〒582 柏原市大正 1-9-53	0729-72-3621
同	五 谷 義 雄	大阪市天王寺小学校 校長	〒543 大阪市天王寺区大道 1-4-49	06-771-0879
兵 庫	柳 瀬 好 夫	明石市立魚住中学校 校長	〒674 明石市魚住町清水 364	078-942-2068
同	永 戸 英 治	県教委・体育保健課学校 体育係長	〒650 神戸市中央区下山手通 5	078-341-7711
奈 良	池 田 治 治	生駒市立鹿ノ台小学校 校長	〒630-01 生駒市鹿ノ台西 1-5-2	07437-8-6282
和 歌 山	加 藤 晃 晃	和歌山市立宮小学校 教頭	〒640 和歌山市秋月 475	0734-73-6131
鳥 取	神 波 長 寿	組合立北浜中学校 校長	〒682-07 東伯郡羽合町田後 745	085835-2731
島 根	渡 辺 晴 夫	県教育庁参事・保健体育課長	〒690 松江市殿町一番地	0852-22-5423
岡 山	宮 原 正 年	倉敷市立大高小学校 校長	〒710 倉敷市堀南 621	0864-22-0536
広 島	合 田 学 学	県立広島皆実高等学校 校長	〒734 広島市南区出汐 2-4-76	082-251-6441
山 口	玉 井 哲 郎	県教育庁 保健体育課長補佐	〒753 山口市後河原松柄	0839-23-1952
徳 島	森 山 宏 士	藍住町立藍住小学校 校長	〒771-12 板野郡藍住町奥野	088692-2238
香 川	岩 本 三 夫	県立高松高等学校 校長	〒760 高松市番町 3-1-1	0878-31-7251
愛 媛	佐々木 寅 義	県立松山北高等学校 校長	〒790 松山市文京町 4-1	0899-25-2161
高 岡	園 田 德 一	福岡市立警固中学校 校長	〒810 福岡市中央区赤坂 2-5-23	092-771-2031
同	高 倉 辰 男	県立小倉南高等学校 教諭	〒803 北九州市小倉南区富士見 1-91	093-921-2293
佐 賀	近 藤 修 修	佐賀市立赤松小学校 校長	〒840 佐賀市城内 2-18-9	0952-24-4225
長 崎	荒 木 乙 明	県立大崎高等学校 校長	〒857-24 西彼杵郡大島町 3520	095934-2301
熊 本	郷 愛 明	熊本市立錦ヶ丘中学校 校長	〒862 熊本市錦ヶ丘 22-1	0963-68-3166
大 分	前 田 義 春	大分市立大在小学校 校長	〒870-02 大分市横田 220	0975-92-0004
宮 崎	有 馬 一 男	県立宮崎南高等学校 校長	〒880 宮崎市月見ヶ丘 5-2-1	0985-51-2314
鹿 児 島	東 園 敏 敏	県立鹿児島東高等学校 校長	〒892 鹿児島市坂元町 1437	0992-47-2000
沖 縄	中 村 正 徳	県立知念高等学校 校長	〒901-13 与那原町字与那原 34	09894-6-2207

加盟団体一覧

1 北海道学校体育団体連絡 (上段は会長、下段は、事務局責任者を示す。)協議会			
鈴木 豊	札幌市立伏見小学校 校長	〒064 札幌市中央区南 18 条西 15 丁目	011-551-2771
杉本 幸一	札幌市立羊丘小学校 教頭	〒061-01 札幌市豊平区月寒東 1 条 16 丁目	011-851-9353
2 青森県学校体育研究連合会			
岡本省三	青森県立青森北高等学校 校長	〒030 青森市合浦一丁目 11 の 10	0177-41-0144
佐藤 弘	青森県立青森北高等学校 教諭	〒030 青森市合浦一丁目 11 の 10	0177-41-0144
3 岩手県学校体育研究協議会			
金田一 芳美	盛岡大学 教授	〒020-01 盛岡市みたけ 2-13-1	0196-41-2193
高橋 哲雄	岩手大学 教授	〒020 盛岡市上田 3 丁目 18-33	0196-23-5171
4 宮城県学校体育研究協議会			
佐藤 信重	仙台大学 教授	〒989-16 柴田郡柴田町船岡山崎	02245-4-1121
洞口 六夫	宮城教育大学 助教授	〒980 仙台市荒巻字青葉	0222-22-1021
5 秋田県学校体育研究連合会			
広嶋 正比古	秋田市立保戸野小学校 校長	〒010 秋田市保戸野すわ町 9-60	0188-23-2651
佐々木 貞雄	秋田市立東小学校 教諭	〒010 秋田市広面字板橋 8	0188-34-9291
6 山形県学校体育研究連合会			
河田 利夫	県立山形南高等学校 校長	〒990 山形市東原町 4-6-16	0236-22-3502
今田 俊雄	県教育庁体育保健課 学校体育係長	〒990 山形市松波 2-8-1	0236-30-2895
7 福島県学校体育研究連合会			
遠藤 辰雄	福島女子短期大学 教授	〒960 福島市宮代乳児池 1-1	0245-53-3221
森 知高	福島大学 助教授	〒960-12 福島市松川町浅川字直道 2	0245-48-5151
8 茨城県学校体育研究連合会			
飯田 武夫	水戸市立梅が丘小学校 校長	〒311-41 水戸市姫子 1-827-2	0292-53-0099
村田 實	水戸市立梅が丘小学校 教諭	〒311-41 水戸市姫子 1-827-2	0292-53-0098
9 栃木県学校体育研究連合会			
岡島 宣八	栃木県立佐野高等学校 校長	〒327 佐野市天神町 761 の 1	0283-3-0161
長野 祐邦	栃木県立佐野高等学校 教諭	〒327 佐野市天神町 761 の 1	0283-3-0161
10 群馬県学校体育研究連合会			
小川 肇	前橋市立総社小学校 校長	〒371 前橋市総社町総社 1608	0272-51-6662
菊地 俊二	群馬県教育委員会体育課 指導主事	〒371 前橋市大手町 1-1-1	0272-23-1111
11 埼玉県学校体育協会			
吉川 正就	埼玉県立浦和高等学校 校長	〒336 浦和市領家 5-3-3	0488-86-3000
倉持 守三郎	埼玉県学校体育協会事務局 理事長	〒336 浦和市仲町 3-5-8 県武道館内	0488-22-6792
12 千葉県学校体育研究連合会			
石田 稔	千葉県立大多喜高等学校 校長	〒298-02 夷隅郡大多喜町大多喜 481	04708-2-2621
石川 恒雄	千葉県教育庁体育課 学校体育係長	〒280 千葉市中央 4-13-28	0472-23-4102
13 東京都学校体育研究連合会			
新村 正雄	東京都立市ヶ谷商業高等学校 校長	〒162 新宿区矢来町 6	03-260-9151~2
藤田 英之	都立市ヶ谷商業高等学校 教諭	〒162 新宿区矢来町 6	03-260-9151~2
14 神奈川県学校体育研究連合会			
田代 七男	横浜市立若葉台東小学校 校長	〒241 横浜市旭区若葉台 2-5-1	045-921-0532
桜井 貞久	横浜市立若葉台東小学校 教諭	〒241 横浜市旭区若葉台 2-5-1	045-921-0532
15 山梨県学校体育連合会			
上笹 春男	甲府市立西中学校 校長	〒400 甲府市飯田五丁目 13-1	0552-22-1378
保坂 孝造	甲府市立西中学校 教諭	〒400 甲府市飯田五丁目 13-1	0552-22-1378

16 長野県学校体育研究会			
大河内 一 樹	諏訪市立四賀小学校 校長	〒392 諏訪市四賀 3175	02665-2-3520
大下 直 登	飯田市立下久堅小学校 教諭	〒399-26 飯田市下久堅丁 950	02665-29-8003
17 新潟県学校体育指導者協議会			
今井 政 夫	新潟県立新潟西高等学校 校長	〒950-21 新潟市内野町開場 4699	0252-62-1561
鷺尾 浩 一	新潟県立新潟西高等学校 教諭	〒950-21 新潟市内野町開場 4699	0252-62-1561
18 富山県学校体育研究連合会			
会田 守 宏	富山県立富山西高等学校 校長	〒939-27 婦負郡婦中町速星 926	0764-66-2156
西野 秀 夫	富山大学教育学部付属中学校 教頭	〒930 富山市五艘 1300	0764-32-5170
19 石川県学校体育研究会			
中垣 敏 男	金沢市立緑小学校 校長	〒920-03 金沢市みどり 1丁目 166	0762-40-1570
坂 弥 寅 吉	金沢市立長土堀小学校 校長	〒920 金沢市長町 3丁目 3-3	0762-31-7433
20 福井県学校体育研究会			
斉藤 輝 夫	開成中学校 校長	〒912 大野市新庄 16-7	07796-5-4680
石黒 忠 憲	福井県教育庁保健体育課 保健体育課長 補佐	〒910 福井市大手 3丁目 17番 1号	0776-21-1111
21 岐阜県小中高体育研究会			
森 茂 雄	岐阜県立羽島北高等学校 校長	〒501-61 羽島郡柳津町北塚 3	05838-8-3611
豊島 康 彰	岐阜県立羽島北高等学校 教諭	〒501-61 羽島郡柳津町北塚 3	05838-8-3611
22 静岡県学校体育研究連合会			
渥美 辰 雄	県立三ヶ日高等学校 校長	〒431-14 引佐郡三ヶ日町約 78-1	05352-5-0103
高田 芳 利	静岡県教育委員会保健課 指導主事	〒420 静岡市追手町 9-6	0542-21-3176
23 愛知県学校体育研究連合会			
蛭川 博	愛知県立西尾高等学校 校長	〒445 西尾市桜町奥新田 2-2	05635-7-2270
平野 辰 子	愛知県教育委員会保健体育課 指導主事	〒460 名古屋市中区三の丸三丁目 1番 2号	052-961-2111
24 三重県学校体育研究連合会			
大内 武	伊勢市立修道小学校 校長	〒516 伊勢市久世戸町 5番地	0596-28-2764
森 弘 明	三重県教育委員会保健課 指導主事	〒514 津市広明町 13	0592-24-2971
25 滋賀県学校体育連絡協議会			
橘 高 章	県立愛知高等学校 教頭	〒529-13 愛知郡愛知川町愛知川 102	074942-2150
森田 長 喜	県教育委員会保健体育課 指導主事	〒520 大津市京町四丁目 1-1	0775-24-1121
26 京都府学校体育研究連合会			
伊達 貞 義	伊根町立筒川小学校 教頭	〒626-03 与謝郡伊根町字本坂 279	07723-3-0202
足立 小 石	京都府教育庁指導部保健体育課 指導主事	〒602 京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町	075-451-6384
27 大阪府学校体育研究協議会			
尾崎 弘 明	大阪府岸和田高等学校 校長	〒596 岸和田市岸城町 10-1	0724-22-3691
福田 隆	大阪府教育委員会事務局保健体育課 指導主事	〒540 大阪市東区大手前之町	06-941-0351
28 兵庫県学校体育研究連合会			
福井 裕	県立御影高等学校 校長	〒658 神戸市東灘区御影石町 4-1-1	078-841-1501
永戸 英 治	兵庫県教育委員会保健体育課 校長	〒650 神戸市中央区下山手通 5丁目	078-341-7911
29 奈良県学校体育研究会			
植田 俊 治	奈良県立奈良高等学校 校長	〒630 奈良市法蓮町 836	0742-23-2855
澤田 隆 一	大和郡山口市立片桐西小学校 教諭	〒639-11 大和郡山口市小泉町 1618	07435-3-3201
30 和歌山県学校体育研究協議会			
赤松 達 夫	和歌山市立今福小学校 校長	〒641 和歌山市今福三丁目 46	0734-24-6101
上野 宏 行	和歌山県教育庁保健体育課 指導主事	〒640 和歌山市小松原通り 1-1	0734-32-4111
31 鳥取県学校体育研究会			
神波 長 寿	北浜中学校 校長	〒682-07 東伯郡羽合町田後 745	085835-2731

花原 勇	丹比小学校 教頭	〒680-06 八頭郡八東町北山 211	085884-2004
32 島根県学校体育研究連合会			
渡辺 晴 夫	島根県教育庁 参事(保健体育課長)	〒690 松江市殿町一番地	0852-22-5423
勝部 嘉 巳	島根県教育庁保健体育課 指導主事	〒690 松江市殿町一番地	0852-22-5426
33 岡山県学校体育研究連合会			
宮原 正 年	倉敷市立大高小学校 校長	〒710 倉敷市堀南 621	0864-22-0536
重松 清 司	岡山県教育庁保健体育課 指導主事	〒700 岡山市内山下 2-4-6	0862-24-2111
34 広島県学校体育研究連合会			
合田 学	広島県立広島皆実高等学校 校長	〒733 広島市南区出汐 2丁目 4-76	082-251-6441
木村 唯	広島県高等学校体育連盟 事務局長	〒730 広島市中区基町 4-10 広島県立体育館内	082-228-8077
35 山口県学校体育研究連合会			
大田 恭 次	山口県教育会 事務局長	〒753 山口市中河原町 5-11	0839-22-0383
白松 寿 人	山口県教育庁保健体育課 保健体育課長	〒753 山口市後河原松柄山口県教育庁保健体育課	0839-23-1952
36 徳島県学校体育連合会			
大賀 清 勝	県立徳島東工業高等学校 校長	〒770 徳島市大和町 2丁目 2番 15号	0886-53-3274
森 勝	県立城東高等学校 教諭	〒770 徳島市中徳島町 1-5	0886-53-9111
37 香川県学校体育会			
岩本 三 夫	香川県立高松高等学校 校長	〒760 高松市番町三丁目 1-1	0878-31-7251
鈴木 章 夫	香川県立高松高等学校 理事長	〒760 高松市番町三丁目 1-1	0878-31-7251
38 愛媛県学校体育研究連合会			
佐々木 寅 義	愛媛県立松山北高等学校 校長	〒790 松山市文京町 4番 1	0899-25-2161
小倉 裕	愛媛県立松山北高等学校 教諭	〒790 松山市文京町 4番 1	0899-22-0223
39 高知県学校体育保健研究連合会			
前田 幹 夫	高知大学 教育学部 教授	〒780 高知市曙町 2-5-1	0888-44-0111
大橋 恒 勝	高知県教育委員会保健課	〒780 高知市丸の内 1-7-52	0888-21-4751
40 福岡県学校保健体育研究会			
園田 徳 一	福岡県立警固中学校 校長	〒810 福岡市中央区赤坂 2-5	093-771-2031
篠崎 俊 一	福岡県立早良中学校 教諭	〒811-11 福岡市西区内野 175	093-804-2206
41 佐賀県保健体育研究会			
近藤 修 和	佐賀市立赤松小学校 校長	〒840 佐賀市内二丁目 18番 9号	0952-24-4225
服部 和 彦	佐賀市立赤松小学校 教諭	〒840 佐賀市内二丁目 18番 9号	0952-24-4225
42 長崎県学校体育研究会			
荒木 乙 二	長崎県立大崎高等学校 校長	〒857-24 西彼杵郡大島町 3520 番地	095934-2301
川口 弘	長崎県立大崎高等学校 教諭	〒857-24 西彼杵郡大島町 3520 番地	095934-2301
43 熊本県学校体育研究会			
川野 衛 平	熊本県立人吉高等学校 校長	〒868 人吉市北泉田町 350 番地	09662-2-2261
井上 隆 光	熊本県立熊本高等学校 教諭	〒860 熊本市新大江 1丁目 8番地	0963-71-3611
44 大分県学校体育研究会			
矢野 典 信	大分市立鶴崎中学校 校長	〒870-01 大分市大字皆春 1200 番地	0975-21-1040
佐藤 英 人	大分市立上野丘中学校 教諭	〒870 大分市上野町 4番 5号	0975-43-1278
45 宮崎県学校体育研究会			
有馬 一 男	県立宮崎南高等学校 校長	〒880 宮崎市月見ヶ丘 5丁目 2番 1号	0985-51-2314
大岐 義 之	県立宮崎南高等学校 教諭	〒880 宮崎市月見ヶ丘 5丁目 2番 1号	0985-51-2314
46 鹿児島県小・中・高等学校体育研究連合会			
東園 敏 洋	県立鹿児島東高等学校 校長	〒892 鹿児島市坂元町 1347	0992-47-2000
庵跡 征 洋	鹿児島県教育庁保健体育課 指導主事	〒892 鹿児島市山下町 14-50	0992-26-8111
47 沖縄県学校体育研究連合会			
中村 正 徳	県立知念高等学校 校長	〒901-13 与那原町字与那原 34	09894-6-2207
山城 幸 儀	県立南風原高等学校 教諭	〒901-11 沖縄県南風原町字津嘉山 1140	0988-89-4618



株式会社
きょうしんせい
東京都新宿区西五軒町五丁目三番三番(大代表) 振替東京九六三
電話(03)661-1311

日本学校体育研究連合会が総力を結集して理論と実際を解説

現代小学校体育全集

[全13巻]

〈新学習指導要領準拠〉

日本学校体育研究連合会＝編集

全13巻セット定価39,000円(〒実費)

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
造本・体裁ⅡA5判・上製ケース入り・横組み・各巻平均300頁・第7巻「水泳」192頁	教科外体育	障害児の体育指導	保健、スキー・スケート	表現運動	ボール運動	水 泳	陸上運動	器械運動	体 操	ゲーム	基本の運動	学校体育
	2,900円(〒300)	3,200円(〒300)	2,900円(〒300)	2,900円(〒300)	2,900円(〒300)	2,200円(〒250)	2,900円(〒300)	2,900円(〒300)	2,900円(〒300)	2,900円(〒300)	5,000円(〒350)	3,200円(〒300)

あ と が き

会報の役割は、学体連の事業を遂行するに当って加盟諸団体に、その時々が必要にしてかつ十分な内容を速報としてお届けすることが大切なことでしょう。だからいつでもよいような一般記事は極力割愛することが望まれます。会報は年に3回程度ですから、年度当初には当該年度の事業内容をお知らせして意見を徴すること、実行後は問題点について明らかにすること等、絶えず中央と地方との連絡を密にすることが重要です。12号は、こんなことを考えて若干ページの割りふりをしてみました(あさだ)。